

双日と株主の皆さまとの
双方向コミュニケーション誌

2012 冬号

双

特集

999

といえば 双日

抽選で
1,000名
さまに
クオカード
(500円分)を
プレゼント

IR インフォメーション

株主アンケートのお願い

 **sojitz**

New way, New value

双日株式会社
証券コード：2768

株主の皆さまにおかれましては
日頃よりご支援とご厚情を賜り厚く御礼申し上げます。
世界経済の減速懸念が強まり、厳しい事業環境ではありますが、
企業価値の向上を目指し、さらなる飛躍に向けて、
テーマとして掲げた「成長軌道に向けた改革の推進」に取り組んでまいります。

代表取締役社長 佐藤 洋二

Q 2013年3月期の第2四半期(累計)実績および
通期見通しについてお聞かせください。

A 「中期経営計画2014」の初年度である2012年度の世界の経済情勢は、欧州の債務問題が依然として深刻で、停滞しております。これまで高い経済成長率で世界経済を牽引していた中国でも、欧州向け輸出が鈍化し、成長率見通しが予想を下回るなど、世界経済全般に減速懸念が高まっています。

このような環境下、当社の2013年3月期中間決算の実績は、資源価格の下落、当社取扱商品の需要減少などにより、経常利益は158億円と前年同期比80億円の減益となり、通期見通し500億円に対し、32%の進捗率にとどまりました。

当期純利益については、日本の株価の下落により保有株式の評価損を計上したことなどから、前年同期比73億円減益の30億円となりました。

Q 2013年3月期の配当について
お聞かせください。

A 中間配当につきましては、期初の予定どおり、1株当たり1円50銭とさせていただきます。

当社は、安定的かつ継続的に配当を行うとともに、内部留保の拡充と有効活用によって企業競争力と株主価値を向上させることを、経営の重要課題のひとつと位置づけております。また「中期経営計画2014」では、連結配当性向20%程度を基本方針としております。

中間配当に関しましては、通期で黒字が確保できる見通しであり、安定的

中間決算の実績が当初の予定を下回ったことから、今期の業績見通しを再度精査した結果、経常利益を500億円から320億円に、当期純利益を200億円から100億円に、下方修正いたしました。

株主の皆さまのご期待に十分にお応えできず、誠に申し訳なく思っております。

厳しい状況ではありますが、企業価値の向上、さらなる飛躍に向けて、資産の質を改善し、稼ぐ力の強化を図るとともに、成長のための投資を継続し、「中期経営計画2014」の「Change for Challenge」のテーマとして掲げております「成長軌道に

向けた改革の推進」に、全力で邁進いたします。

かつ継続的な配当を維持する観点からも、1株当たり1円50銭といたしました。年間配当予想も1株当たり3円(中間1円50銭、期末1円50銭)と変更しておりません。

この4月にスタートしました、「中期経営計画2014」を確実に遂行し、必ずや株主の皆さまのご期待にお応えしたいと存じます。

引き続き、当社グループへのご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

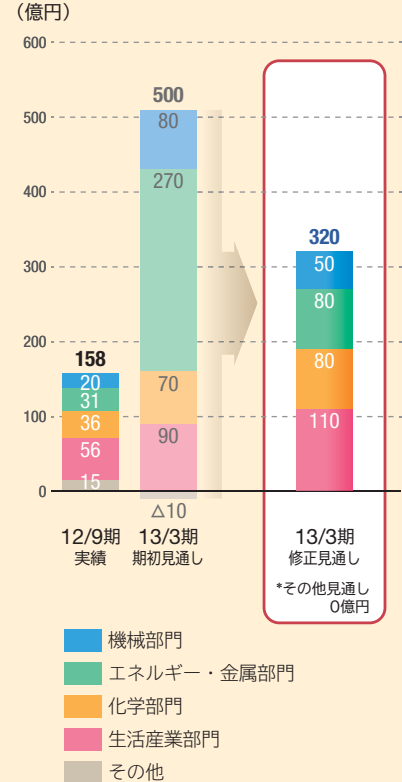
当社の業績に及ぼす影響

- 中国など新興国の経済の鈍化で金属資源価格が下落・低迷し、金属資源関連の収益が大幅減少見込み
- 日本の株価の下落で投資有価証券評価損計上
- 為替の影響

外部環境

- 欧州債務問題は依然深刻
- 中国をはじめとする新興国の予想を上回る経済成長鈍化
- 日本経済回復鈍化
- 円高・株安
- 金属資源価格の下落・低迷

事業セグメント別経常利益



双日グループ 企業理念

双日グループは、誠実な心で世界の経済や文化、人々の心をつなぎ、新たな豊かさを築きつづけます。

双日グループ スローガン

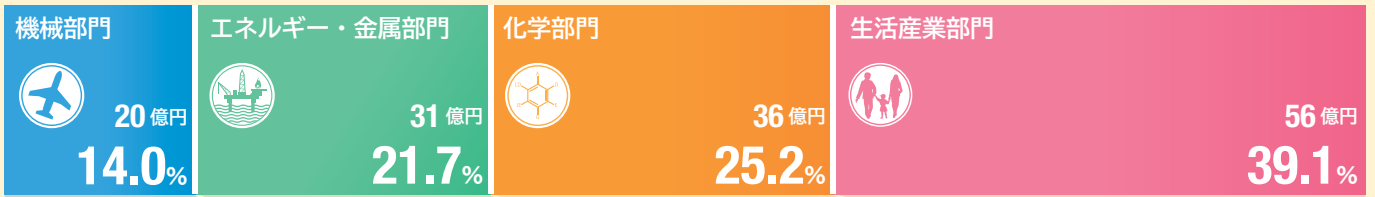
New way, New value

双日は、2003年の設立以来、新しいビジネスと価値を創出する総合商社として、国内外約490社の関係会社とともに世界各国の拠点を通じ、機械、エネルギー・金属、化学、生活産業の4分野にて事業展開を行っています。



営業部門別経常利益構成比

(2012年9月期)



機械部門	エネルギー・金属部門	化学部門	生活産業部門
<ul style="list-style-type: none"> 自動車本部 インフラプロジェクト・産機本部 船舶・宇宙航空本部 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー本部 石炭・原子力本部 鉄鋼・金属資源本部 	<ul style="list-style-type: none"> 化学品本部 環境資材本部 	<ul style="list-style-type: none"> 食料本部 農林資源本部 コンシューマーサービス・開発建設本部
 ボーイングB787「ドリームライナー」	 米国 フェニックス油田 浮遊式石油生産設備	 ブラジル 石油化学プラント	 アルゼンチン 大豆農場

2012年

- | | |
|----|--|
| 4月 | <ul style="list-style-type: none"> 国分と共同でベトナム最大級の食品卸業者に出資 アジア食品卸業者に本格進出 日本政策投資銀行と地方中堅・中小企業のアジア進出支援で協力 アジアの成長を地方銀行向けに情報提供 |
| 5月 | <ul style="list-style-type: none"> 東芝と共同でベトナム石炭火力発電所プロジェクトを受注 明電舎と共同で香港の地下鉄向け変電設備一式を受注 再生電力貯蔵装置「キャパポスト」を海外初受注、消費電力を約1割削減 |
| 6月 | <ul style="list-style-type: none"> 双日ジーエムシー、世界各国で愛される本物志向の米カジュアルバッグ「EASTPAK (イーストパック)」の取扱いを開始 ① 中国内モンゴルのモンゴル資源会社に出資 ② モンゴル資源の独自物流網を確保 インドネシアでエビ養殖・加工事業に参入 拡大する世界需要に、良質なエビを供給 |
| 7月 | <ul style="list-style-type: none"> 双日ロジスティクス、ベトナムに物流事業会社設立 増加するメコン地域での物流需要に対応 ブラジル・ブラスケム社から植物由来樹脂のアジア向け販売代理権を獲得 石油由来比で最大70%のCO₂排出量を削減 双日コスメティックス、自社化粧品ブランド「ナチュレシア」の新商品「ナチュレシア プラス」を販売開始 モンゴルの石炭火力IPP入札案件において優先交渉権を獲得 ③ ウランバートルの電力需要量の約半分を供給 メキシコにおいて世界最大級のバライト鉱山へ出資 ④ 石油・ガス採掘時の掘削泥水原料として需要拡大 |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> ベトナム電力公社から火力発電所建設プロジェクトを受注 ベトナムの安定的電力供給に貢献 |
| 9月 | <ul style="list-style-type: none"> 双日システムズ、VMware ThinApp®を利用したアプリケーションの仮想化に本格参入 PCのバージョンアップに伴うアプリケーション移行の悩みを一気に解決 双日コスメティックス、「ナチュレシア プラス」に新商品登場 うるおい循環力と満ちるハリ 自然派エイジングケアシリーズ ボーイングと日本でのサイバーセキュリティ ビジネス拡大に向けて提携 官民向けに、ネットワーク保護、データ分析、人材教育などのサービスを提供 |



① 米カジュアルバッグ「EASTPAK (イーストパック)」



② モンゴルの炭鉱開発地帯



③ 2013年完成予定のIPP案件 オマーン「バルカ3」



④ バライト選鉱工場

ビジネスニュース

双日グループの2012年度上期の事業活動の一部をご紹介します。

連結損益計算書及び連結包括利益計算書(要旨)

(億円)

	2013年3月期 第2四半期 (2012.4.1~2012.9.30)	2012年3月期 第2四半期 (2011.4.1~2011.9.30)	増減額
売上高	19,526	21,957	△2,431
売上総利益	948	1,022	△74
販売費及び一般管理費	△780	△795	15
営業利益	168	227	△59
経常利益	158	238	△80
当期純利益	30	103	△73
包括利益	△116	△53	△63

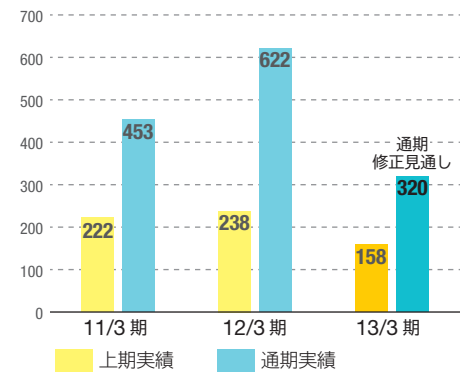
連結貸借対照表(要旨)

(億円)

	2013年3月期 第2四半期末 (2012.9.30現在)	2012年3月期 期末 (2012.3.31現在)	増減額
流動資産	12,337	12,981	△644
固定資産	7,726	8,222	△496
繰延資産	2	3	△1
総資産	20,065	21,206	△1,141
流動負債	9,103	9,474	△371
固定負債	7,801	8,427	△626
純資産	3,161	3,305	△144
負債及び純資産	20,065	21,206	△1,141

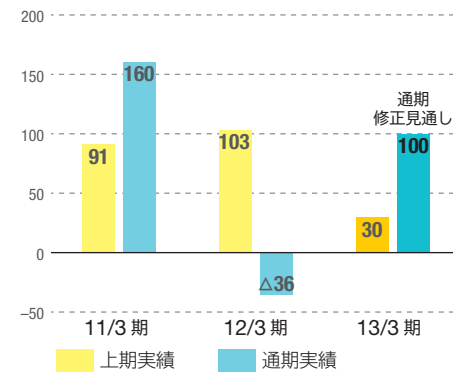
経常利益

(億円)



当期純利益

(億円)



連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(億円)

	2013年3月期 第2四半期 (2012.4.1~2012.9.30)	2012年3月期 第2四半期 (2011.4.1~2011.9.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	388	6
投資活動によるキャッシュ・フロー	△201	△276
財務活動によるキャッシュ・フロー	△457	81
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,953	3,971

主要経営指標

	2013年3月期 第2四半期末 (2012.9.30現在)	2012年3月期 期末 (2012.3.31現在)
ネット有利子負債	6,293億円	6,478億円
ネットDER(負債倍率)*	2.2倍	2.1倍
自己資本比率*	14.5%	14.4%

*少数株主持分を除いて計算しています。

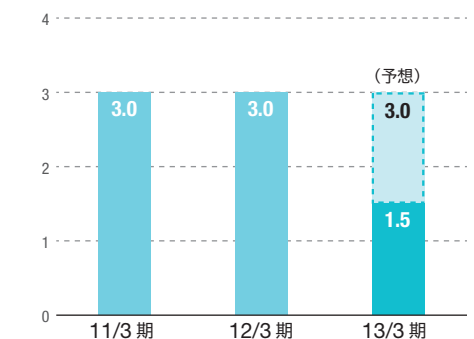
Q 2013年3月期の配当はいくらになりますか?

A 当社は、株主の皆さまに対して安定的かつ継続的な配当を行うとともに、内部留保の拡充と有効活用によって企業競争力と株主価値を向上させることを経営の重要課題のひとつと位置づけ、連結配当性向を20%程度とすることを「中期経営計画2014」における基本方針としております。

2013年3月期の配当につきましては、中間配当は期初の予定どおり、1株当たり1円50銭といたしました。また、年間3円(中間1円50銭、期末1円50銭)の配当予想も変更してありません。

配当金

(円)



財務レポート

Q 決算のポイントは?

A 当社の取扱い商品の需要の減少や価格の下落があったことに加え、保有株式の評価損を計上した結果、売上高・売上総利益・営業利益・経常利益・当期純利益ともに前年同期比で減収・減益となりました。

Q 資産・負債の状況は?

A 資産については、化学品および石油関連取引の減少などによる受取手形及び売掛金の減少、株価および為替の変動による投資有価証券の減少などにより、減少しました。

一方、負債については、石油関連および機械関連取引の減少などによる支払手形及び買掛金の減少、社債償還、借入金返済などにより、減少しました。

純資産については、その他有価証券評価差額金、為替換算調整勘定の減少などにより、減少しました。

基礎知識

キャッシュ・フロー(CF)計算書とは?

会計期間中の現預金(キャッシュ)の増減(フロー)を示したもので、経営におけるキャッシュの流れを営業活動、投資活動、財務活動の3つに分けて示しています。

- **営業活動によるキャッシュ・フロー**
企業の本来の事業活動に伴うキャッシュの増減を表したものの
- **投資活動によるキャッシュ・フロー**
将来のための投資に支出した金額および売却などにより回収した金額を表したものの
- **財務活動によるキャッシュ・フロー**
資金調達や配当金の支払など、財務に関するキャッシュの増減を表したものの
- **現金及び現金同等物の期末残高**
会計期間末における現金や預金、満期が3カ月以内の定期預金などの残高を表したものの

中期経営計画2014

～ Change for Challenge ～

さらなる飛躍に向けた新たな挑戦を果たすため、自らを変革し続けていく
この強い信念をもって、企業価値の向上を目指す

成長軌道に向けた改革の推進

資産の質を改善し、稼ぐ力を強化

成長のための投資継続（集中事業領域へ戦略配分）

創造性、効率性、高度なリスクマネージ力を持って事業展開ができる体制・組織の構築

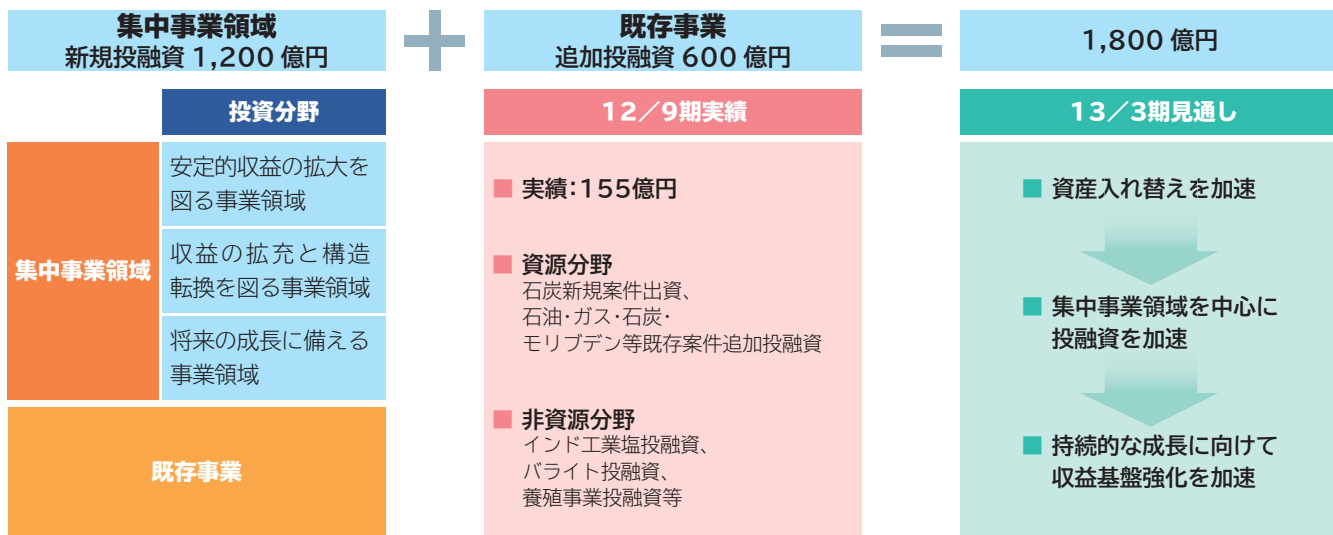
グローバル化が加速する経済環境でも戦い抜ける事業モデルの変革と強い人材の育成

自己資本の積み上げによる財務基盤拡充

企業価値の向上、さらなる飛躍へ

■ 投融資計画

- 資産の入れ替えを通じて、投融資の原資を創出し、集中事業領域に経営資源を優先配分
- アジア、アフリカ、南米等の新興国を中心に1,800億円の投融資を計画



■ 業績見直し修正要因

化学、生活産業は堅調である一方、金属資源価格の下落・低迷や一部事業の収益減少などにより、経常利益を500億円から320億円に下方修正しました。また保有株式の評価損を計上した結果、当期純利益を200億円から100億円に下方修正しました。

	下方修正要因	期初前提と足元の状況	期初見通し比
経常利益	金属資源価格の下落・低迷	前提 合金鉄等を中心に今年度後半から市況は上昇すると想定 足元 期初の前提価格を下回って推移。前提価格を下方修正	△180億円 下方修正: △220億円 上方修正: 40億円
	設備故障等によるエネルギー関連生産量の一時的な減少	前提 設備故障の油田の生産再開、一部油田の生産開始を秋に想定 足元 生産再開、生産開始が来春にずれこみ	
	一部事業の収益減少	前提 ロシア、ベネズエラにおける自動車事業も他地域の自動車事業同様、好調を維持し一定の収益を想定。バイオエタノール事業は収穫量増加により、赤字幅縮小を想定 足元 政治、天候、為替等の外部要因で大きく収益を圧迫	
当期純利益	投資有価証券評価損計上	2013年3月期第2四半期連結ベースで△110億円の相場株式の評価損を計上	△100億円

999 といえば 双日

双日は総合商社として幅広く事業を展開していく中で、数多くの事業分野における実績を築いてきました。特集では、その中でも双日を代表する事業の一部をご紹介します。

現在、世界のメタノールの需要は、5,500万トンですが、2016年には7,000万トンまで増加すると見込まれています。

メタノール

といえば 双日
年間取扱量

100万トン

当社はインドネシアにてメタノール製造販売会社を運営しております。成長市場に近く、需要家に早く輸送できるという優位性を活かし、アジア各国を中心に販売しています。

ベトナムは世界有数の農業国です。GDPや人口も年々増加しており、同国の経済成長はまだ続くものと考えられています。

ベトナム

といえば 双日
ベトナム進出

第1号

当社はベトナム戦争終結後、日系企業では初めてベトナムに進出し、以来ベトナム政府との間に友好的な関係を築いています。現在では、木材チップの製造・販売事業、食品卸事業、肥料事業、IPP事業などの多岐に亘る事業に取り組み、活発にビジネスを展開しています。

人口増加や食生活の変化に伴い世界の穀物需要は増加しております。その生産に必要な肥料の需要も年々増加しています。

高度化成肥料

といえば 双日

タイ・ベトナム・フィリピン
におけるシェア

トップクラス

当社は、東南アジアのタイ・ベトナム・フィリピンの3か国において、年間180万トンの高度化成肥料を製造・販売しており、トップクラスのシェアを確保しています。当社は今後も、東南アジアの農産物増産に貢献いたします。

塩の用途には食用と工業用の2種類があり、日本国内の総需要量800万トンの内、約8割は工業用として使用されます。

工業塩

といえば 双日
対日輸入シェア

20%

石鹼や洗剤の出発原料となる工業塩は、国内需要量の全てを輸入に頼っています。当社はその需要の約20%を、インドやオーストラリア等の事業投資先・取引先から調達し、国内の需要家のもとへお届けしています。

レアメタルとは、非鉄金属のうち産出量の少ない希少な金属を指しており、産地が偏在しているため安定供給が課題となっています。

レアメタル

といえば 双日
対日輸入シェア

トップクラス

当社は、モリブデンやニオブの対日輸入シェアがNo.1です。また総合商社の中では、タングステンやクロムをはじめとした多くの品目の鉱山への投資を行い、レアメタルの安定供給に貢献しています。

日本の航空会社で使用する航空機は、全てボーイング社などの海外航空機メーカーにより製造されたものです。

民間航空機

といえば 双日

民間航空機の導入実績(国内)

シェア80%以上

当社は海外民間航空機メーカーである米国ボーイング社の国内販売コンサルタントを55年以上、またカナダ・ボンバルディア社の国内販売代理店を30年以上務めております。現在国内で運航されている民間航空機の80%以上が両社の製品であり、当社取扱いによるものです。

日本において、電力のエネルギー源の約4分の1には石炭が使用されており、エネルギー多様化の一端を担っています。

石炭

といえば 双日
対日年間取扱量

1,250万トン

石炭には主に発電用の一般炭や製鉄用の原料炭がありますが、当社はその両方の石炭について権益投資および物流事業を行っており、石炭の対日輸入取扱量においては、総合商社の中でもトップクラスです。

各国企業がアジア諸国への進出を進めており、日系企業の運営する工業団地需要は、近年増加しています。

工業団地

といえば 双日
総開発面積

約1,800ha

当社は現在、3か国/4案件に取り組んでおり、その総開発面積は約1,800ヘクタールとなり、東京ディズニーランド37個と同程度の面積となります。今後も総合商社としての機能を有効活用し、工業団地の開発・運営を進め、新興国経済発展に寄与してまいります。

アフリカは2050年には人口が現在の約10億人から約20億人に倍増すると予想されており、市場の将来性に期待がもたれています。

アフリカ

といえば 双日

1890年代 から進出

当社は、1890年代のエジプトでの取引に始まり、アンゴラや東アフリカなどの国・地域に他社に先駆けて進出してまいりました。現在でも、原油生産、完成車販売、木材チップの製造・輸出など、多くの事業に取り組んでおり、今後もアフリカでの収益源の創出に邁進いたします。

IPPとは、Independent Power Producer(独立系発電事業)の略語です。IPP事業により発電された電力は、各国の電力公社等に販売されます。

IPP

といえば 双日

オマーンの総発電容量の 25%を供給

当社は現在、中東オマーンにてIPP事業2案件に参画しており、両案件は2013年中に完成予定です。完成後、2案件の合計発電容量は1,488MWとなり、同国発電所の総発電容量の25%に相当します。当社は今後もIPP事業に参画し、各国の安定的な電力供給、経済発展に貢献してまいります。

第2回

ごはんのお供 鮭フレーク



岩手県
釜石市



こんな
ところに
双日!



食卓やお弁当で、ごはんのお供として定番の鮭フレーク。こんなところにも双日製品があります。

当社グループの双日食料水産(株)の大槌工場は、東日本大震災とその後の津波により、工場が被災し、生産停止を余儀なくされました。しかし、2012年3月より岩手県釜石市にて工場を再建し、生産を再開しております。この工場は鮭フレーク専用工場として新設され、原料から製品までの一貫生産体制により、一般家庭向けの瓶詰鮭フレークと、販売用のおにぎりなどに使用する業務用鮭フレークの両方を製造しております。同商品は、スーパーマーケット「ライフ」や「平和堂」、「カスミ」などの一部の店舗でもお取扱いをいただいております。

ぜひ一度、双日食料水産の鮭フレークをお試しください。

双日グループ 新商品のご紹介

「落とす・うるおす」にこだわった
自然派エイジングケアシリーズ

ナチュレシア プラス



ナチュレシア プラス
ブライトニングソープ
(化粧石けん)



ナチュレシア プラス
ブライトニングクリア
(洗い流しマッサージ料)



ナチュレシア プラス
リファイニングローション
(保湿化粧水)



ナチュレシア プラス
リファイニングエッセンス
(保湿美容液)



ナチュレシア プラス
ブルーゼリー
(ゼリー状美容液)



ナチュレシア プラス
リファイニングクリーム
(保湿クリーム)

「ナチュレシア プラス」開発担当者インタビュー



双日コスメティックス株式会社
商品企画部 商品開発課

岩永 由香子

天然水にこだわり、お肌にうるおいを与える自然派化粧品『ナチュレシア』ご愛用者さまからのお声を反映し、うるおいだけでなく、年齢とともに気になり出すたるみや、乾燥によるくすみ(古い角質のこと)をケアする年齢肌対策シリーズとして生まれ変わりました。

機能が低下した年齢肌の場合、やみくもに「与える」だけのケアでは肝心の美容成分が浸透しません。まずは「古くなった角質を取り除き、お肌が美容成分を受け入れる準備を整えてあげること」が重要です。当社ではこの点に着目し、

基本3品に加え、洗浄用アイテム2品をご用意いたしました。

ローション・エッセンス・クリームの基本3品にはお肌への浸透を高めるために、厳選した美容成分をナノ化して配合、加えてエイジングケアに欠かせないコラーゲン、ヒアルロン酸・エラスチンを配合することで、ハリ・弾力のある肌へ導く製品が完成いたしました。

ひとりでも多くのお客さまに自信あふれる輝く笑顔になっていただきたい、そんな想いで生まれたのが『ナチュレシア プラス』シリーズです。

商品のご購入は

お客さま注文センター

0120-86-7204

9:00 - 20:00
年中無休(年末年始除く)

詳しくは、[双日コスメティックス](http://www.sojitz-cosmetics.com/)

検索

<http://www.sojitz-cosmetics.com/>



当社の代表取締役社長 佐藤洋二に、
60余年のこれまでのあゆみと、その先に想い描く双日の未来について、
じっくりと語っていただきました。6話の連載でお届けしています。

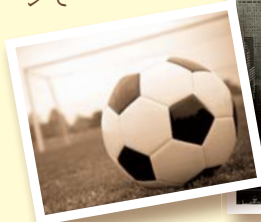
【第1話】大きな力—社長就任 ※一部抜粋

計画を成し遂げていくためには「大きな力」が要る。
持続可能な耐久力とともに、時には爆発的なエネルギーを伴う、瞬発力も求められるだろう。

そうした「大きな力」はどうすれば生み出されるのか？

簡単な答えはない。でも確実な
答えはある、と私は信じている。

全文は、当社ホームページで
ご覧ください。



- 【第2話】神様のいたずら — 学生時代
- 【第3話】涙の理由 — 初めてのニューヨーク駐在
- 【第4話】思い出の交差点 — ニューヨーク
- 【第5話】強みを作る — 2012年入社後記
- 【最終話】最後の宿題 — これからの双日

双日は、株主・個人投資家の
皆さまとの
双方向コミュニケーションを
目指しており、
当社ホームページからの
情報開示に力を入れています。
ここでは、ホームページで
公開している情報の一部を
ご紹介いたします。

3分でわかる！今月の双日

もっと双日をご理解いただくために、株式関連
情報をはじめ、双日グループの商品情報など
最新情報をいち早くアップデートしています。

- ▶ 双日株価情報
- ▶ 双日ホットピックス
今月最も熱い話題をご紹介
- ▶ 双日グループWebから
- ▶ 双日グループ今月の商品情報
- ▶ 今月のお問い合わせ
- ▶ 社長の肉声



双日の事業で学ぶ—理科・社会

商社は多くの商品を取扱っています。
双日に取り組む事業を通じて、関連する
理科と社会の豆知識をご紹介します。

耐火物

製鉄産業を支える影の主役

- ▶ 理科「耐火物」って、なに？
- ▶ 社会 原料確保は大丈夫？



詳しくは、

双日 個人投資家

検索

<http://www.sojitz.com/jp/ir/individual/index.html>



株主アンケートのお願い

アンケート実施期間
2012年12月17日まで

当社は、株主の皆さまのお声をいただいて、IR活動を充実してまいりたいと考えております。つきましては、下記アンケートサイトにアクセスいただき、アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。ご回答いただいた株主さまの中から抽選で1,000名さまにクオカード(500円分)をプレゼントいたします。
(当選者の発表は、2013年1月下旬のクオカードの発送をもって代えさせていただきます。)

なお、ご回答いただいた株主さま全員に、小冊子「社長の部屋」(2012年6月～12月に当社ホームページに掲載した全6話を小冊子にしました)をプレゼントいたします。



抽選で

1,000
名さまに

クオカード
(500円分)を
プレゼント

STEP 1 アンケートサイトへの接続方法

株主ひろば

検索

または、下記URLを入力

パソコン <http://kabuhiro.jp/>

携帯電話 <http://kabuhiro.jp/m/>

携帯電話用QRコード



アンケートは、全16項目の選択方式です。

アンケート結果については、2013年6月下旬発行予定の「双」2013夏号にてご報告いたします。

アンケート項目(一部抜粋)

- 「双」2012冬号のご感想
- 当社ホームページのどの項目に興味をお持ちでしょうか?
- 当社株式の保有方針

STEP 2 ご回答方法

画面中央の入力ボックスに、アンケートナンバー **sojitz2768** を入力して回答画面にお進みください。

個人株主向けアンケート

「株主ひろば」にアクセスしていただきまして、ありがとうございます。アンケートにご回答いただくには、お手元のアンケートナンバーを入力し、「アンケート画面に進む」ボタンを押して次の画面にお進みください。

アンケートナンバー

sojitz2768

アンケート画面に進む

このアンケートは、諸費用(郵便料金など)の削減と集計作業の迅速化を目的として、株式会社アイ・アール ジャパン(IR支援会社)が運営するWebアンケートシステム「株主ひろば」を利用して実施しております。

ご回答の操作方法などのお問い合わせ先

株式会社アイ・アール ジャパン 株主ひろば事務局

☎ **0120-197-900** E-mail: inquiry@kabuhiro.jp

平日 10:00～12:00/13:00～17:00 (2012年12月17日まで)

! ご注意

入力いただいた個人情報は、議決権行使に関するご案内や、株主さま向けの活動充実のために使用させていただく場合がございます。予めご了承の上、ご回答ください。また、アンケートサイトをご利用いただく際のプロバイダーへの接続料金および通信事業者への通信料金(電話料等)は、株主さまのご負担となります。

名古屋株主説明会開催のご案内



2013年3月に名古屋におきまして、株主説明会を開催いたします。

2012年5月8日に発表した「中期経営計画2014～Change for Challenge～」を中心に、2013年3月期見通しや今後の事業展開などについてご説明させていただきたいと存じます。

当社をより深くご理解いただける機会になれば幸いです。

皆さまのご参加をお待ちしております。

- 会場収容人数の都合上、抽選とさせていただきます。
- 抽選の結果は、入場票の発送をもってご当選者の発表に代えさせていただきます(入場票は2013年2月上旬発送予定です)。
- ご入場は、当社から発送した入場票をお持ちの株主さまご本人限りとさせていただきます。

開催日	2013年3月4日(月曜日)
時間	午後2時～午後4時
場所	名古屋市内のホテル
当社出席者	取締役ほか
お申込み方法	同封の返信用はがきに必要な事項をご記入の上、ご投函ください。
お申込み締め切り	2012年12月25日(火曜日)必着

! ご注意

※ 個人情報保護のため、同封の保護シールのはく離紙をはがし、返信用はがきの個人情報記載欄の上にシールを貼りつけてから、ご投函ください(切手は不要です)。

※ 会場までの交通費は株主さまご本人のご負担となります。

※ 参加申込用はがきにご記入いただいた個人情報は、議決権行使に関するご案内や株主さま向けの活動充実のために使用させていただく場合がございます。予めご了承の上、お申込みください。

前回の2012年8月27日に開催しました大阪株主説明会の映像は、以下のURLよりご覧いただけます。

双日 大阪株主説明会

検索

<http://www.sojitz.com/jp/ir/meetings/share/index.html>

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領 株主確定日	3月31日
中間配当金受領 株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎事業年度終了後3カ月以内
株主名簿管理人 特別口座の口座 管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL：0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 大阪証券取引所 (証券コード：2768)
公告の方法	電子公告により行います。 公告掲載URL http://www.sojitz.com/jp/koukoku/index.html (ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をできない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により公告いたします。)

株式の状況 (2012年9月30日現在)

発行可能株式総数	2,500,000,000株
発行済株式総数	1,251,499,501株
株主数	198,561名

会社情報

会社概要 (2012年9月30日現在)	
会社名	双日株式会社
英文名	Sojitz Corporation
設立	2003年4月1日
資本金	160,339百万円
事業目的	総合商社
本社所在地	〒100-8691 東京都千代田区内幸町二丁目1番1号
TEL	03-6871-5000
FAX	03-6871-2430
URL	http://www.sojitz.com
拠点数	国内 7(支店、国内法人等) 海外 90(現地法人、駐在員事務所等)

役員 (2012年9月30日現在)

代表取締役会長	加瀬 豊 (かせ ゆたか)
代表取締役副会長	原 大 (はら たかし)
代表取締役社長	佐藤 洋二 (さとう ようじ)
代表取締役副社長執行役員	段谷 繁樹 (だんたに しげき)
代表取締役専務執行役員	茂木 良夫 (もぎ よしお)
取締役(非常勤)	指田 禎一 (さしだ よしかず)
	長島 徹 (ながしま とおる)
監査役	塚田 尚 (つかだ たかし)
	松本 順 (まつもと じゅん)
	鴫田 和彦 (とぎた かずひこ)
監査役(非常勤)	町田 幸雄 (まちだ ゆきお)
	湯浅 光章 (ゆあさ みつあき)

払渡しの期間終了後のお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社
証券代行部

 0120-232-711 (通話料無料)

土日、祝祭日を除く平日
9:00 ~ 17:00

当期における中間配当については、期初の予定どおり、1株当たり1円50銭といたしました。配当金は、2012年12月4日以降お受け取りいただけます。
なお、ゆうちょ銀行または郵便局で受領される場合の払渡しの期間は、2012年12月4日から2013年1月11日までとなっております。

中間配当のご案内

編集後記

リニューアル後、第2弾となる「双」2012冬号はいかがでしたでしょうか。

特集では、「〇〇〇〇」といえば「双」と題し、

株主の皆さまに「双」をもっとご理解いただくために、代表的な事業の一部を一挙まとめてご紹介しました。また、IRインフォメーションにて株主アンケートのお願いをご案内しております。ご参照の上、ご協力いただければ幸いです。

「双」は、「双」を通して株主の皆さまとの双方向コミュニケーションを図りながら「双」の事業活動をわかりやすくお伝えしていきたいと考えております。

次号「双」2013夏号は2013年6月下旬発行予定です。どうぞご期待ください。

双日株式会社 IR室

株主カレンダー

2013年	
2月上旬	2013年3月期 第3四半期 決算発表・説明会
3月4日	名古屋 株主説明会
5月上旬	2013年3月期 決算発表・説明会
6月下旬	第10回 定時株主総会

将来情報に関する注記

本報告書に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確定な要素を含んだものであることをご理解ください。



双日株式会社